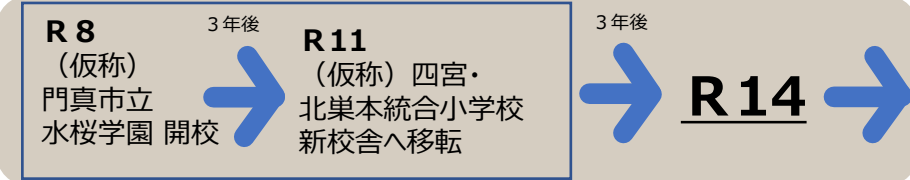


R11（四宮・北巢本統合小学校開校）時点

校舎建設の目安 ※財政面・体制面等によって変動する可能性高



R 8 2年後
生涯複合施設 開館

R 8 2年後
シティタワー古川橋 竣工
(41F 建 全648戸)

R 13 7年後
門真市役所 新庁舎開庁

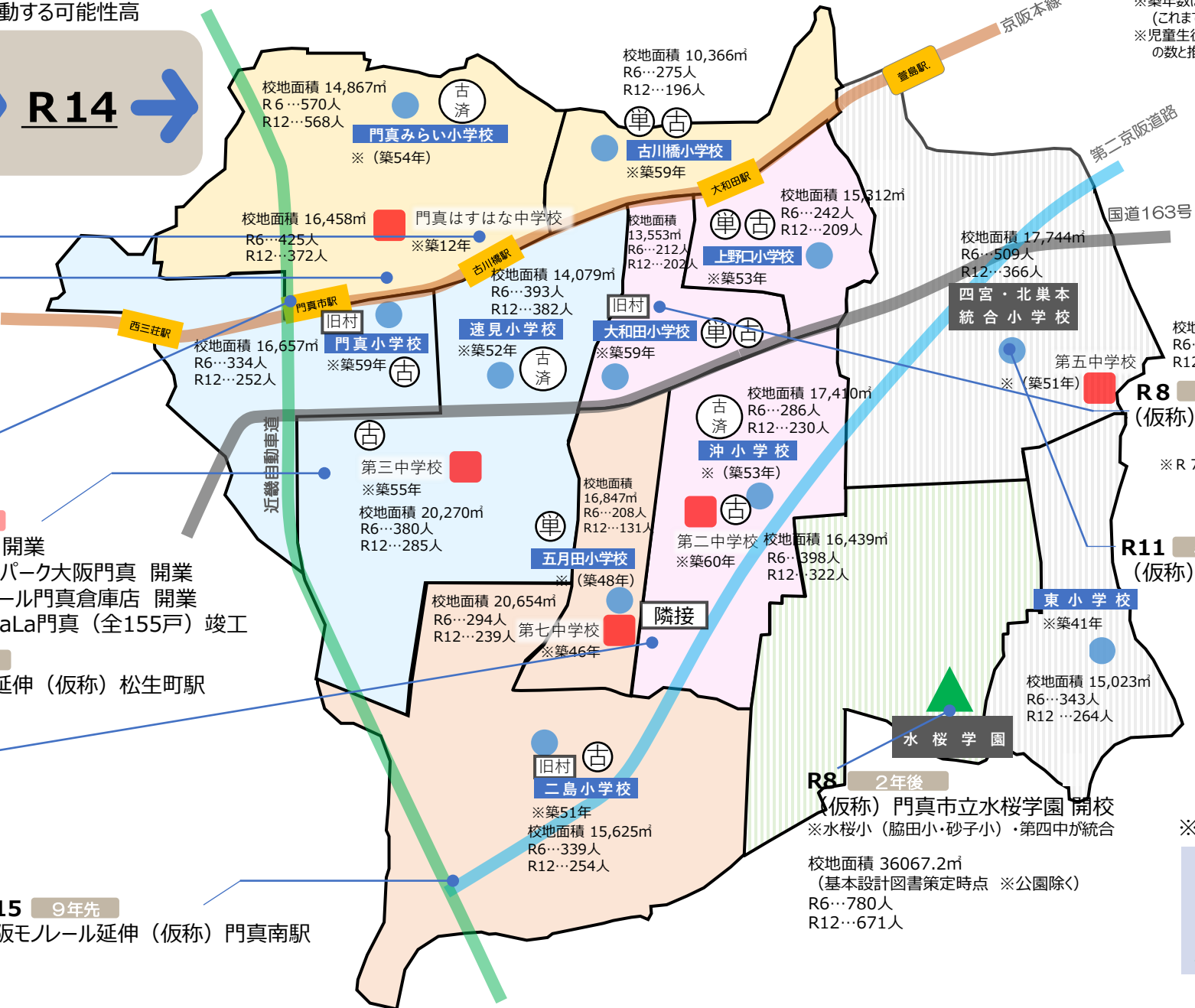
R 5 1年前
ららぽーと門真 開業
三井アウトレットパーク大阪門真 開業
コストコホールセール門真倉庫店 開業
パークホームズLaLa門真 (全155戸) 竣工

R 14 8年後
門真市駅周辺を再開発
※ R 14まちびらき予定

R 15 9年先
大阪モノレール延伸 (仮称) 松生町駅

南東地域まちづくり基本構想
※スポーツ関連施設・交流広場・防災公園・
物流, ものづくり施設の建設・誘致等を想定

R 15 9年先
大阪モノレール延伸 (仮称) 門真南駅



※築年数は令和 6 年 5 月 1 日時点
(これまでの資料より 1 年追加しています)
※児童生徒数と学級数は令和 6 年 5 月 1 日時点
の数と推計です

R 8 2年後
(仮称) 幼保連携型認定こども園
大和田こども園 運用開始
※ R 7 に大和田幼稚園と上野口保育が統合

R 11 5年後
(仮称) 四宮・北巢本統合小学校
新校舎移転
※四宮小・北巢本小が統合

※令和11年

● 小学校	11
■ 中学校	5
▲ 義務教育学校	1

再編案を考える上で、今まで確認してきたこと（基本的な考え方とも重複）

- キーワードは「人とのつながり」（地域やコミュニティとのつながりも含む）
- 門真の子どもたちのために何がいいかを議論したい。
- 魅力的な学校づくりにより、地域の活性化やまちづくりにもつなげたい。

どちらかというと
教育論

- 児童生徒数の減少を踏まえ、将来像を見据えて考えることが大事。

現状配置からの再編の方向性【通学距離・これまでの経緯・優先順位】

↓
中期的な配置イメージ

どの視点も必要。現状と将来の配置を押さえて
中期的な配置を検討したい。

↓
将来の極論の配置（1小1中）

どちらかというと
再編論

- 人とのつながりを重視した再編とはどの程度の規模をめざすのか
⇒ 小学校では3クラスが良いかと考える。1つの目標。
- 小中一貫を進めるいくつかのエリアを作っていく。
⇒ 中学校区の将来的なエリア設定が実は鍵（現状の校区とは違う視点も必要）

学校の再編をどの程度進める必要があるか

将来像を見据えた時に、中学校はどの程度再編が必要になるのか？（標準規模は学年4～6クラス）

- ⇒ 中学校の方が切実な状況
- ⇒ 小中一貫教育をベースにする場合、中学校の配置の考え方がエリア分けに直結する。

●中学校

生徒数	学級数	12学級以上ある学校
R 6（実績）2,237人	R 6（実績） 65	R 6（実績） 3校
R12（推計）1,936人	R12（推計） 54	R12（推計） 0校

学年4～6クラス規模（150～200人程度）を想定すると、1校約450～600人

R12 1,936人 ÷ （450～600）人 = （中学校）3校～4校程度か。



あくまで数字上の話なので、将来像としての中学校再編の1つの目安
一気にはできないので、将来に向けて順序立てて再編を進めることが必要

各中学校の基本情報

第二中学校

開校年月日	建築年 (和暦)	建築年 (西暦)	築年数 (年) R6 4/1現在	大規模改修 (全面改修)
昭和38年4月1日	昭和39年	1964	60	なし

生徒数の予想推移							
	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
第二中学校	398	402	391	383	348	338	322
(1年生)	124	138	126	116	103	117	100
(2年生)	138	125	139	127	117	104	118
(3年生)	136	139	126	140	128	117	104

学級数の予想推移						
令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
12	11	10	10	9	9	9
4	4	3	3	3	3	3
4	3	4	3	3	3	3
4	4	3	4	3	3	3

第五中学校

開校年月日	建築年 (和暦)	建築年 (西暦)	築年数 (年) R6 4/1現在	大規模改修 (全面改修)
昭和48年4月1日	昭和48年	1973	51	H27,H28

生徒数の予想推移							
	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
第五中学校	411	421	402	386	360	330	305
(1年生)	127	149	126	111	123	96	86
(2年生)	145	127	149	126	111	123	96
(3年生)	139	145	127	149	126	111	123

学級数の予想推移						
令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
12	11	10	10	9	9	9
4	4	3	3	3	3	3
4	3	4	3	3	3	3
4	4	3	4	3	3	3

第三中学校

開校年月日	建築年 (和暦)	建築年 (西暦)	築年数 (年) R6 4/1現在	大規模改修 (全面改修)
昭和43年4月1日	昭和44年	1969	55	なし

生徒数の予想推移							
	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
第三中学校	380	363	369	348	325	316	285
(1年生)	132	122	118	111	99	109	80
(2年生)	111	131	121	117	110	98	108
(3年生)	137	110	130	120	116	109	97

学級数の予想推移						
令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
11	10	10	9	9	9	8
4	3	3	3	3	3	2
3	4	3	3	3	3	3
4	3	4	3	3	3	3

第七中学校

開校年月日	建築年 (和暦)	建築年 (西暦)	築年数 (年) R6 4/1現在	大規模改修 (全面改修)
昭和53年4月1日	昭和53年	1978	46	なし

生徒数の予想推移							
	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
第七中学校	294	291	284	263	245	242	239
(1年生)	97	98	90	76	80	86	73
(2年生)	96	97	98	90	76	80	86
(3年生)	101	96	96	97	89	76	80

学級数の予想推移						
令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
9	9	8	7	6	6	6
3	3	2	2	2	2	2
3	3	3	2	2	2	2
3	3	3	3	2	2	2

第四中学校

開校年月日	建築年 (和暦)	建築年 (西暦)	築年数 (年) R6 4/1現在	大規模改修 (全面改修)
昭和47年4月1日	昭和48年	1973	51	H11,H12

生徒数の予想推移							
	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
第四中学校	329	327	282	272	250	253	246
(1年生)	102	99	80	92	77	83	85
(2年生)	126	102	99	80	92	77	83
(3年生)	101	126	103	100	81	93	78

学級数の予想推移						
令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
9	9	8	8	7	7	6
3	3	2	3	2	2	2
3	3	3	2	3	2	2
3	3	3	3	2	3	2

門真はすはな中学校

開校年月日	建築年 (和暦)	建築年 (西暦)	築年数 (年)	大規模改修 (全面改修)
平成24年4月1日	平成24年	2012	12	なし

生徒数の予想推移							
	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
門真はすはな中学校	425	410	390	397	397	402	372
(1年生)	129	129	135	136	129	140	106
(2年生)	154	128	128	134	135	128	139
(3年生)	142	153	127	127	133	134	127

学級数の予想推移						
令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和10年	令和11年	令和12年
12	11	10	9	9	10	10
4	3	3	3	3	4	3
4	4	3	3	3	3	4
4	4	4	3	3	3	3

学校の再編をどの程度進める必要があるか

将来像を見据えた時に、目標を3クラス程度とすると小学校はどの程度まで再編が必要になるのか？

⇒ 中学校区のエリア分けを踏まえながら、小学校の再編を検討する必要がある。

●小学校

児童数	学級数	12学級以上ある学校
R 6(実績) 4,162人	R 6(実績) 361	R 6(実績) 8校/12校
R12(推計) 3,479人	R12(推計) 297	R12(推計) 4校/12校
※四宮・北巢本は統合する想定で計算		

学年3クラス規模(80～100人程度)を想定すると、1校約540～600人

$$R12 \quad 3,479人 \div (540\sim 600)人 = (小学校) \text{6校}\sim\text{7校程度} \text{の配置か。}$$



あくまで数字上の話なので将来像としての小学校再編の1つの目安
現状の配置や将来像に向けて、順序立てて再編を進めることが必要

市内全体の学校数の現状について

課題 児童生徒数に比べ、学校数が多い状態（児童生徒が少ない、いわゆる「小規模の学校」の数が多い）
この状態が続くことによって・・・ 1つの学校にかけることができる資源が分散してしまう可能性があります。



門真のめざす教育や令和の日本型学校教育を実現する上で、多様な人との縦・横のつながりが非常に重要です。その上で、**単学級**などでは、クラス替えがないなど、**人間関係が固定化**され、子どもたちが多様化している中で、**多様な考え方に触れる機会が課題**となります。

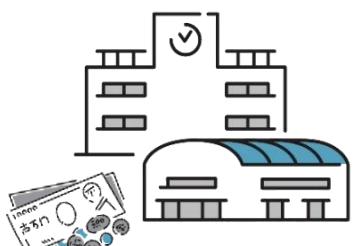
人とのつながり



栄養教諭：児童生徒数が550人以上で1名
養護教諭：小851人・中801人以上で更に1名
事務職員：小27学級・中21学級以上で更に1名
※その他条件でも配置されることがあります。

児童生徒数や学級数を一定規模以上にすることで教職員を手厚く配置することが可能です。
また、小規模の中学校では、教員の定数の兼ね合いで、**本来1学年の授業を受け持つところを複数の学年の授業を受け持つ必要のある教員が発生する**なども考えられます。

教職員の配置



学校数が多いほど、**学校施設の維持管理や改善にけることのできる費用や時間が分散されてしまいます。**
これからの教育への対応や時代に対応した安心・安全な学校づくりに向け、効果的な施設コスト配分も検討が必要です。

施設対応コスト



左記同様、学校数が多いほど、各学校にかけられる**人的資源や校区の人材も、分散される可能性**があります。子どもたちは、**様々な人とのつながりを積み重ねる中で、将来の自分とのつながりをみつけていきます。**校区を広げ地域の多様な人と関わりながら学ぶ環境をつくることも必要です。

人的資源



児童生徒数が少ない場合、運動会などの**学校行事の規模も小さく**なります。また、教職員の数も比例して少ないため、**1人の教職員が担う役割（業務や担当）が多くなり、行事等においては、どうしてもこのことから、前年踏襲といった傾向に陥りやすくなる**可能性があります。

行 事

など

小学校：1学年3クラス程度 中学校：1学年4～6クラス程度

一定数の学校規模を維持し、限りある資源を集中することで教育の質の維持向上を保ちたいと考えています。

市内全体の学校の築年数と大規模改修の現状について (小学校)

経過年数順

R6年度時点

小学校名	開校年月日	建築年	経過年数	校地面積 (m ²)	うち運動場 面積 (m ²)	階数	延床面積 (m ²)	備考
古川橋小学校	昭和40年4月1日	昭和40年	59年	10,366	5,413	3	5,088	
大和田小学校	明治5年6月	昭和40年	59年	13,553	6,150	3	5,852	
門真小学校	明治5年6月	昭和40年	59年	16,657	7,725	4	7,742	
四宮小学校	明治7年10月12日	昭和40年	59年	17,744	9,835	4	6,321	R11新築予定
門真みらい小学校	平成24年4月1日	昭和45年	54年	14,867	9,363	4	7,467	H17・H18 大規模改造
沖小学校	昭和45年4月1日	昭和46年	53年	17,410	10,522	4	6,019	H27・H28 大規模改造
上野口小学校	昭和46年4月1日	昭和46年	53年	15,312	6,237	4	5,961	
速見小学校	昭和46年4月1日	昭和47年	52年	14,079	7,777	4	6,308	H9・H10 大規模改造
脇田小学校	昭和47年4月1日	昭和47年	52年	17,625	11,351	4	7,057	R8新築予定
二島小学校	明治8年4月3日	昭和48年	51年	15,625	8,448	4	6,603	
北巢本小学校	昭和49年4月1日	昭和49年	50年	14,796	8,368	4	5,445	R11新築予定
五月田小学校	昭和51年4月1日	昭和51年	48年	16,847	10,719	4	5,438	H25・H26 大規模改造
砂子小学校	平成17年4月1日	昭和51年	48年	18,417	13,635	4	5,394	R8新築予定
東小学校	昭和58年4月1日	昭和58年	41年	15,023	6,873	3	5,422	

市内全体の学校の築年数と大規模改修の現状について（中学校）

経過年数順

R6年度時点

中学校名	開校年月日	建築年	経過年数	校地面積 (㎡)	うち運動場 面積 (㎡)	階数	延床面積 (㎡)	備考
第二中学校	昭和38年4月1日	昭和39年	60年	16,439	10,660	3	7,628.64	
第三中学校	昭和43年4月1日	昭和44年	55年	20,270	9,307	4	7,698.42	
第四中学校	昭和47年4月1日	昭和48年	51年	20,570	11,655	4	7,643.43	H11・H12大規模 R8新築予定
第五中学校	昭和48年4月1日	昭和48年	51年	18,798	12,274	4	7,287.41	H27・H28 大規模改造
第七中学校	昭和53年4月1日	昭和53年	46年	20,654	10,993	4	7,925.00	
門真はすはな中学校	平成24年4月1日	平成24年	12年	16,458	8,805	4	9,482.87	H24新築

市内全体の学校の築年数（老朽化）の現状について

校舎や児童生徒数の現状から再編の優先順位が高いと考えられる学校

小学校

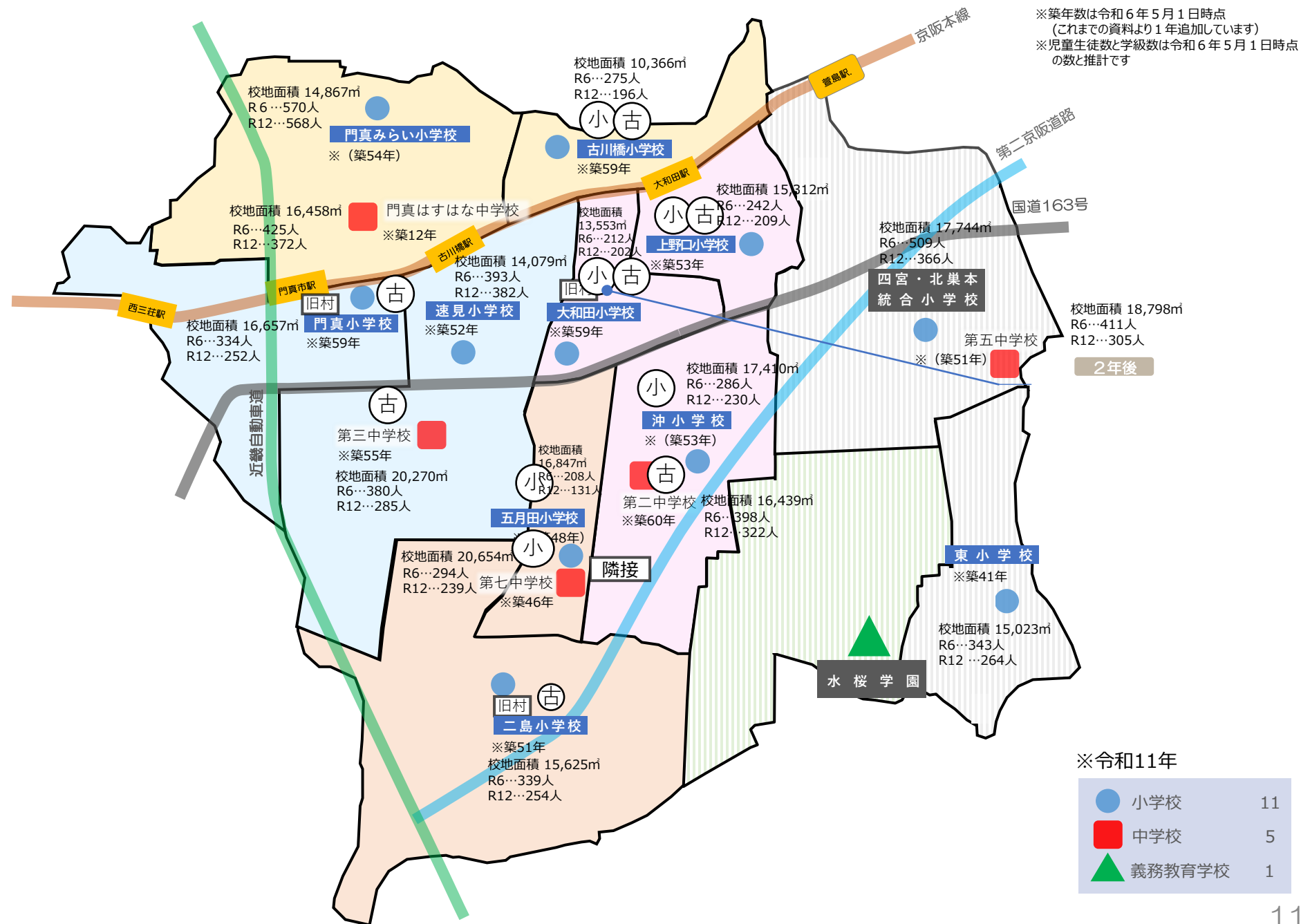
- R12. 4. 1時点で、築45年を超え、大規模改修未実施の校舎
門真小学校 大和田小学校 二島小学校
古川橋小学校 上野口小学校
- R12. 4. 1時点で半分以上の学年で単学級となっている見込みの学校
五月田小学校 大和田小学校 上野口小学校
古川橋小学校 沖小学校

中学校

- R12. 4. 1時点で築45年を超え、大規模改修未実施の校舎
第二中学校 第三中学校 第七中学校
- R12. 4. 1時点で2クラスの学年が発生している見込みの学校
第七中学校

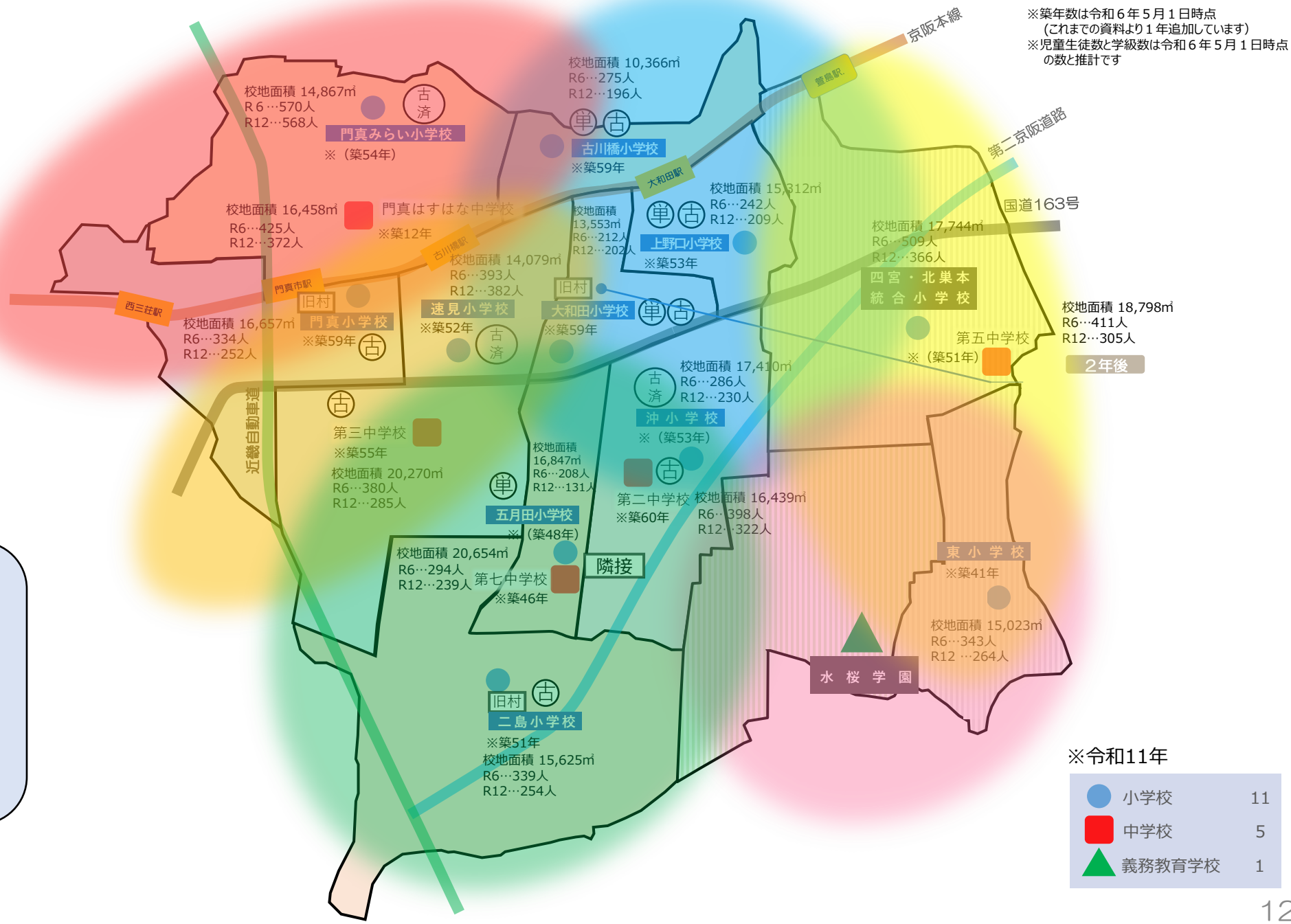
将来に向けてのエリア分けを検討

現状の中学校区（６エリア） 特に小規模、特に校舎の対応が必要な学校配置の現状



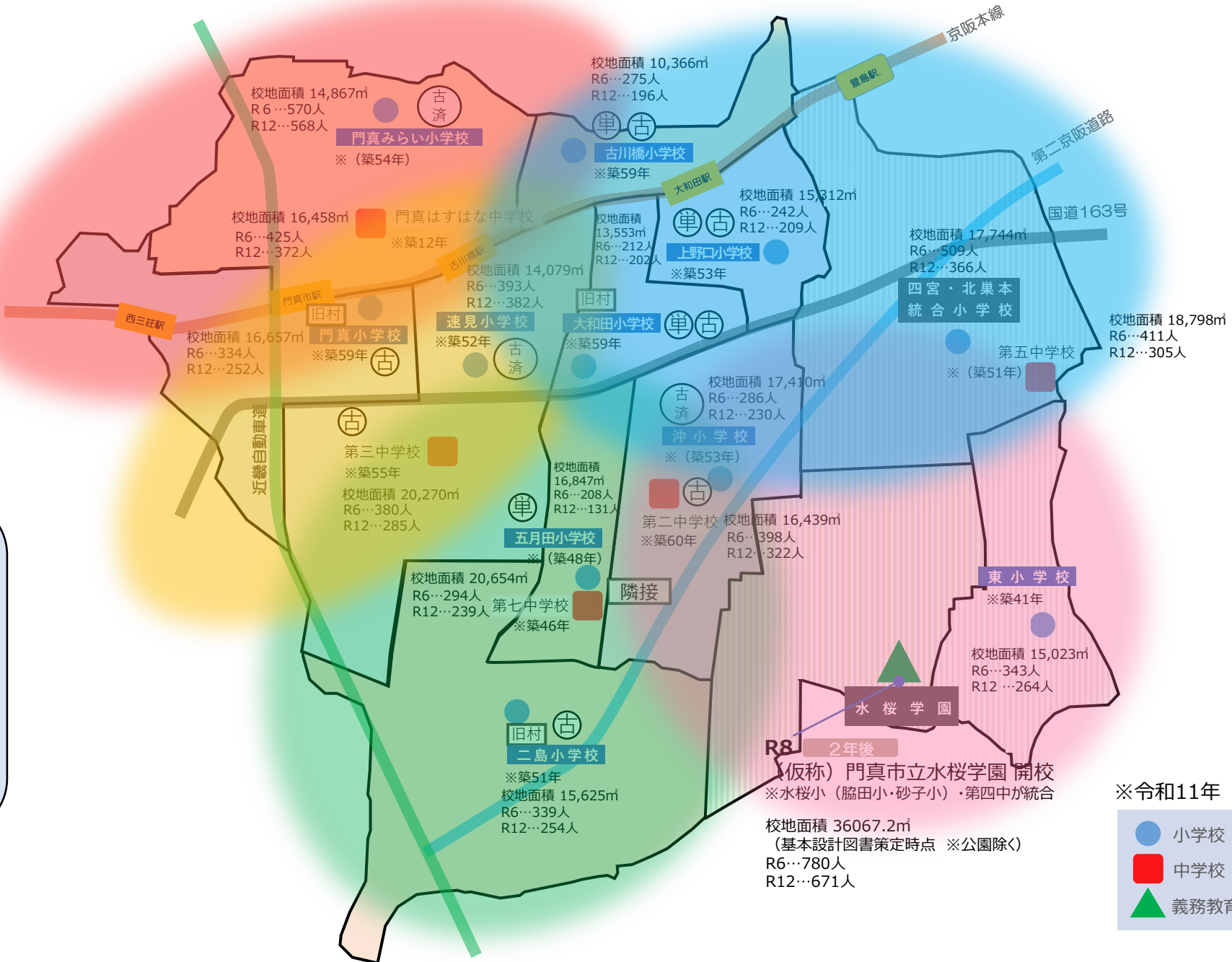
仮に6エリアを維持した場合の校区範囲のイメージ

将来像として
6エリアを維持するとすると、
現状と大きくは変わらないもの
の、校区の再編については検討
の余地がある。

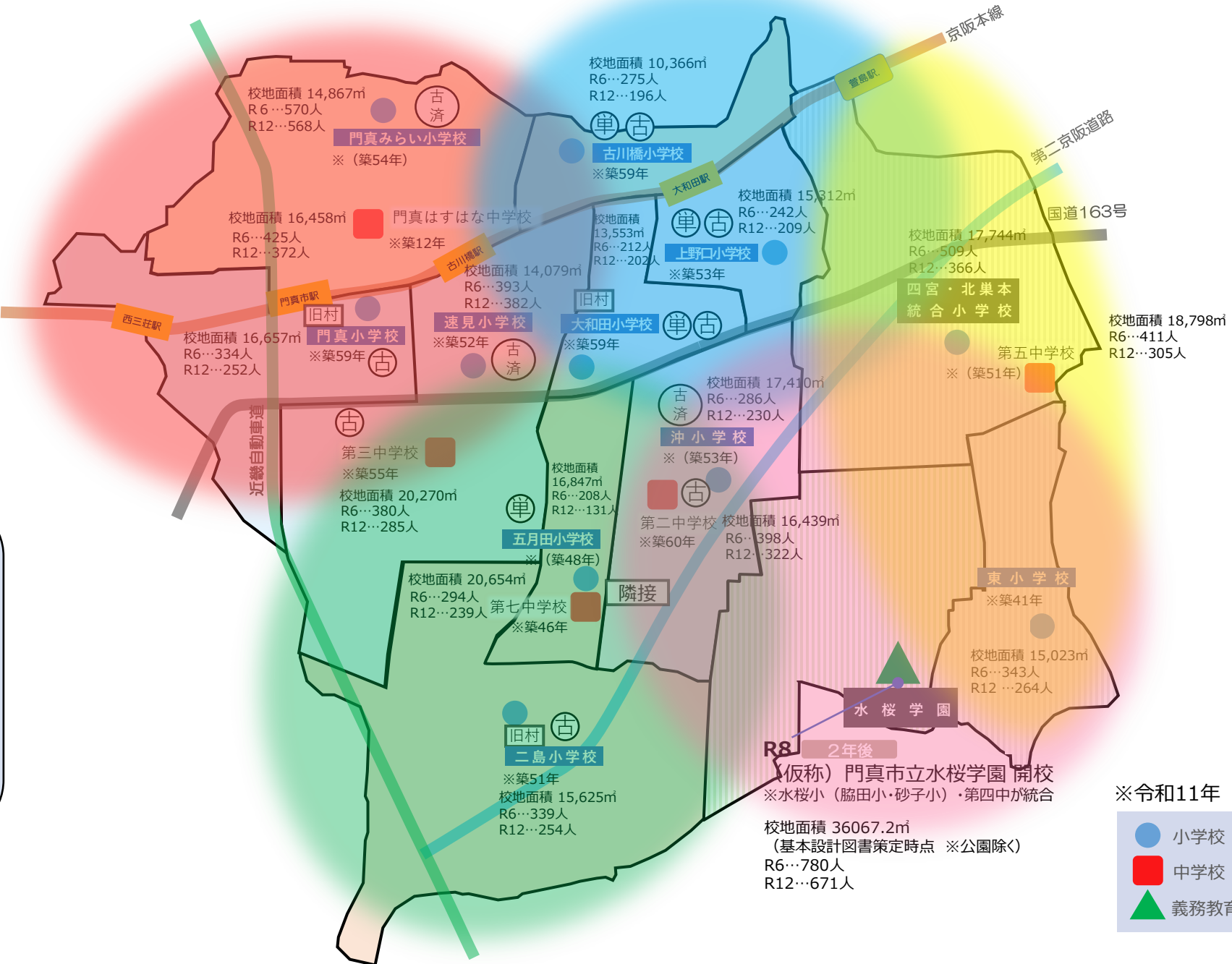


仮に市内 5 か所にエリアを分けて学校を設置するならば（一例）

将来像として
市内で 5 か所設置とすると、
エリア分けは中学校配置
の考え方によって、いろいろ
なエリア分けが考えられる。



仮に市内 5 か所にエリアを分けて学校を設置するならば（一例）



将来像として
市内で 5 か所設置とすると、
エリア分けは中学校配置
の考え方によって、いろいろ
なエリア分けが考えられる。

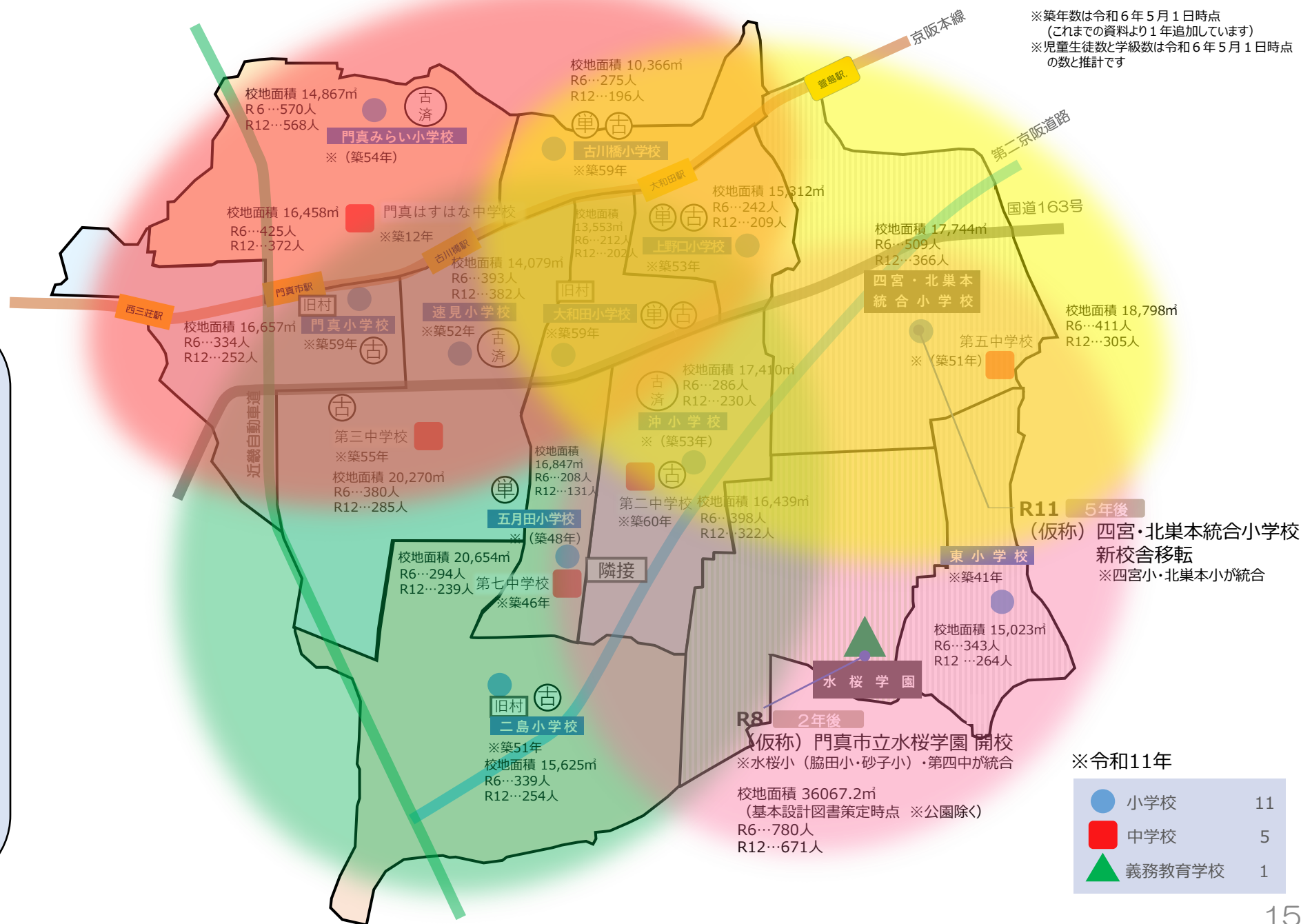
※令和11年

● 小学校	11
■ 中学校	5
▲ 義務教育学校	1

仮に市内 4 か所にエリアを分けて学校を設置するならば（一例）

将来像として
市内で4カ所設置とすると、
エリア分けは中学校配置の
考え方によって、いろいろな
エリア分けが考えられる。

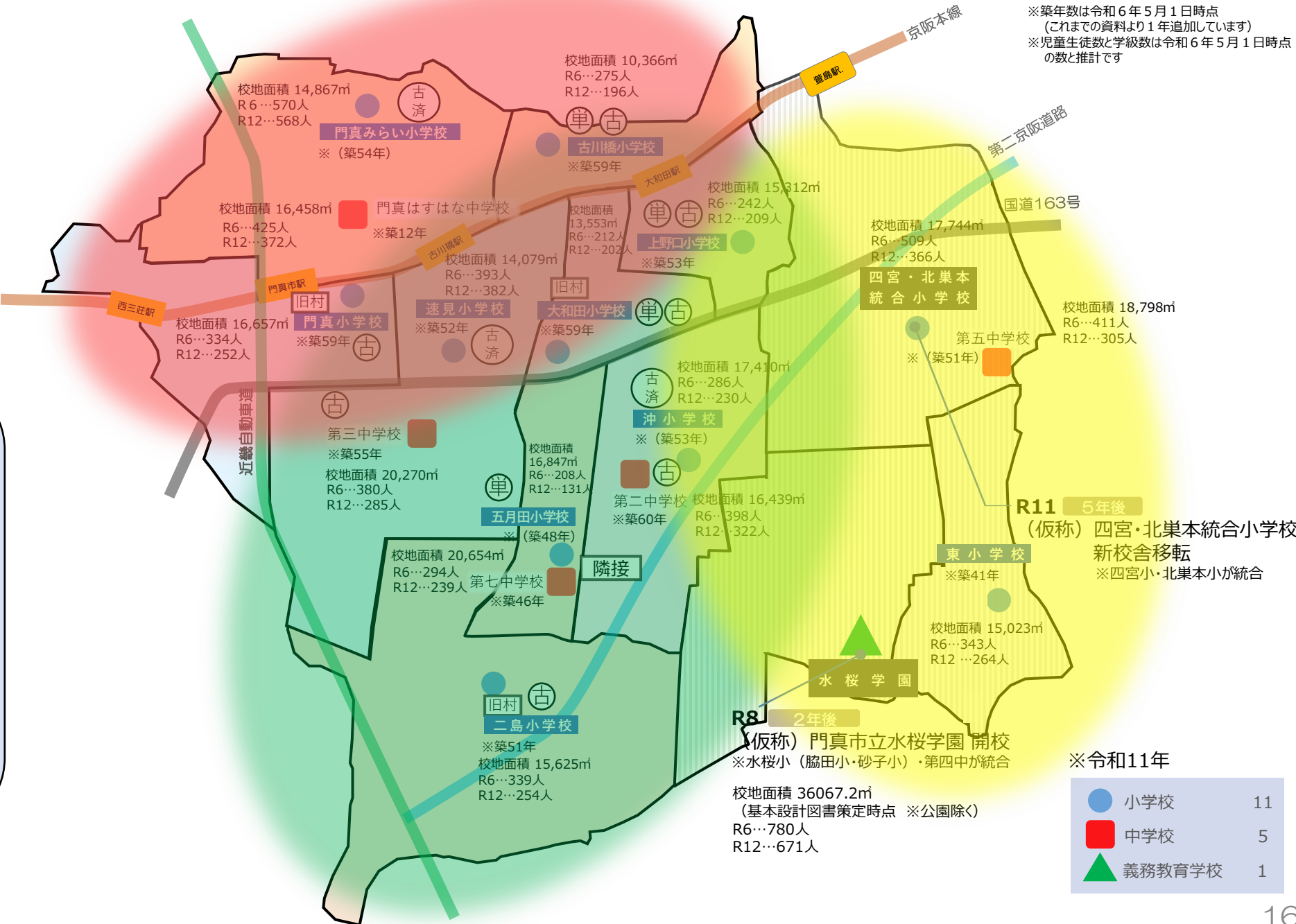
校区の広さや通学距離、
これまでの学校の変遷、
エリア等を考えつつ、
各エリアの範囲（右図重
なっている部分）について
検討したい。



仮に市内 3 か所にエリアを分けて学校を設置するならば

将来像として
市内で 3 か所設置すると
すると、エリア分けはいくつか
考えられる。

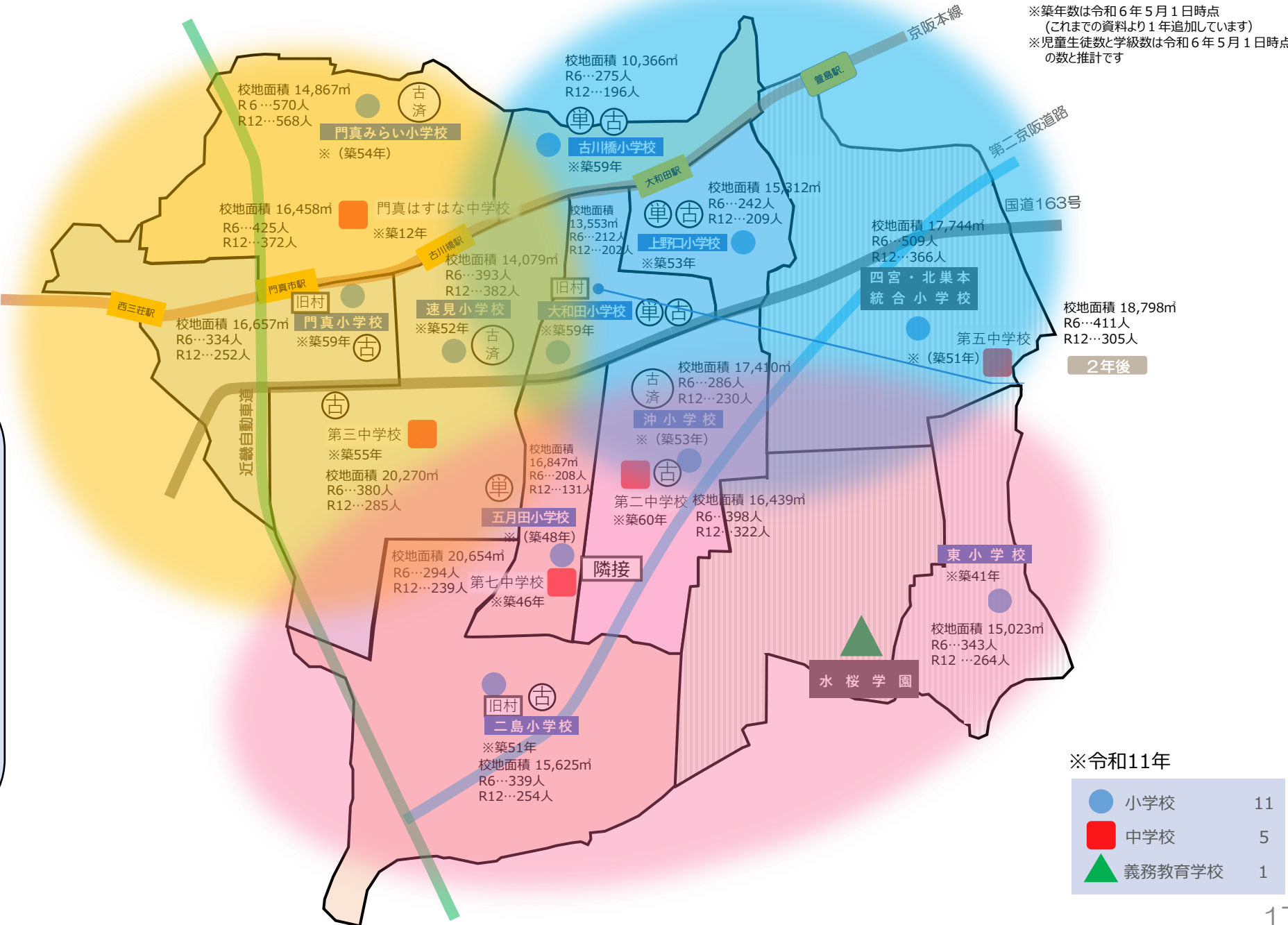
校区の広さやこれまでの今
後の再編の考え方によって、
いろいろなエリア分けが考え
られる。



仮に市内 3 か所にエリアを分けて学校を設置するならば

将来像として
市内で 3 か所設置すると
すると、エリア分けはいくつか
考えられる。

校区の広さやこれまでの今後
の再編の考え方によって、
いろいろなエリア分けが考え
られる。

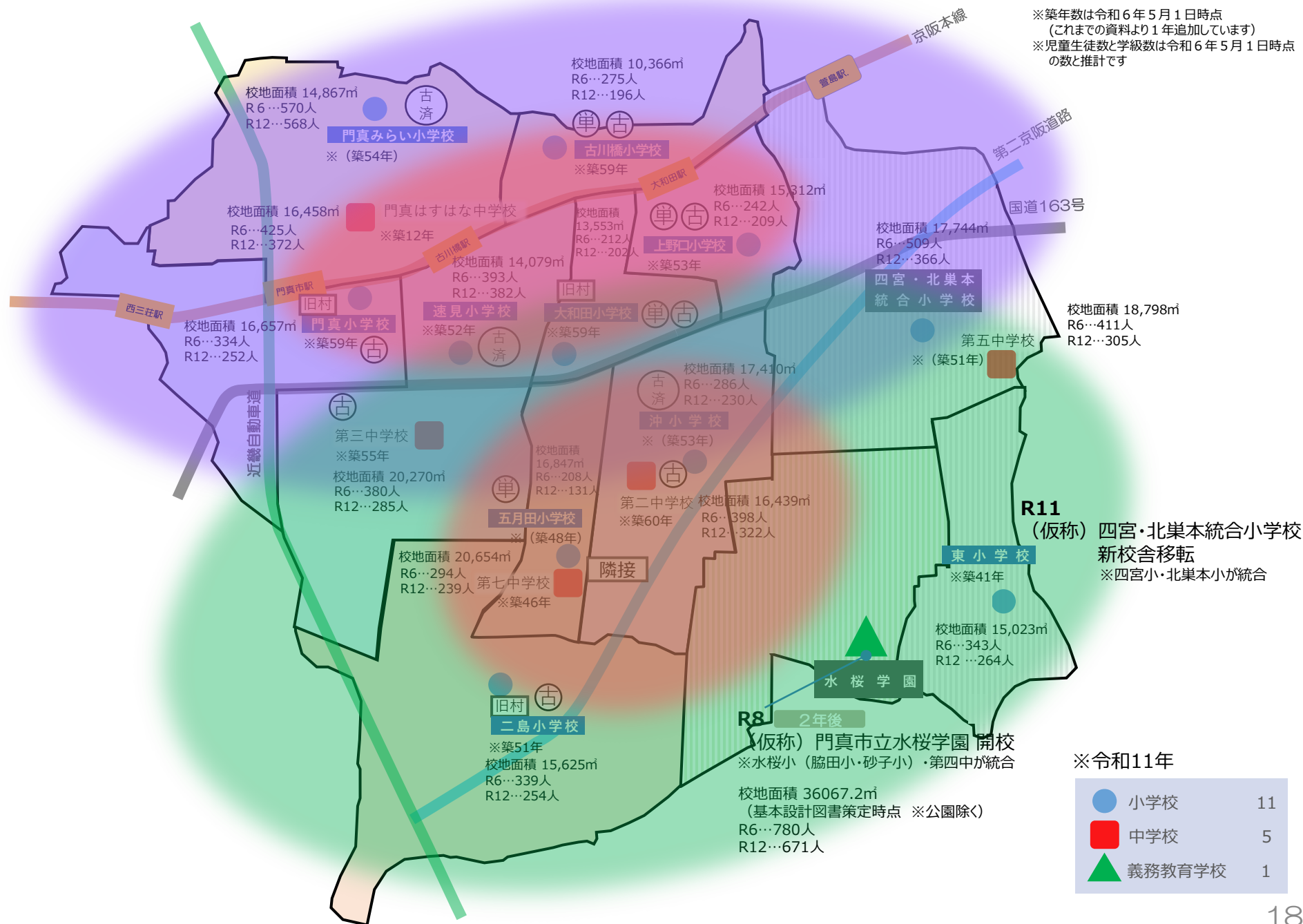


仮に市内 2 か所にエリアを分けて学校を設置するならば

将来像として
市内で2カ所設置する
とすると、

- ・東西にそれぞれ
または
- ・南北にそれぞれ

学校があるのが望ましい
と考えられる。

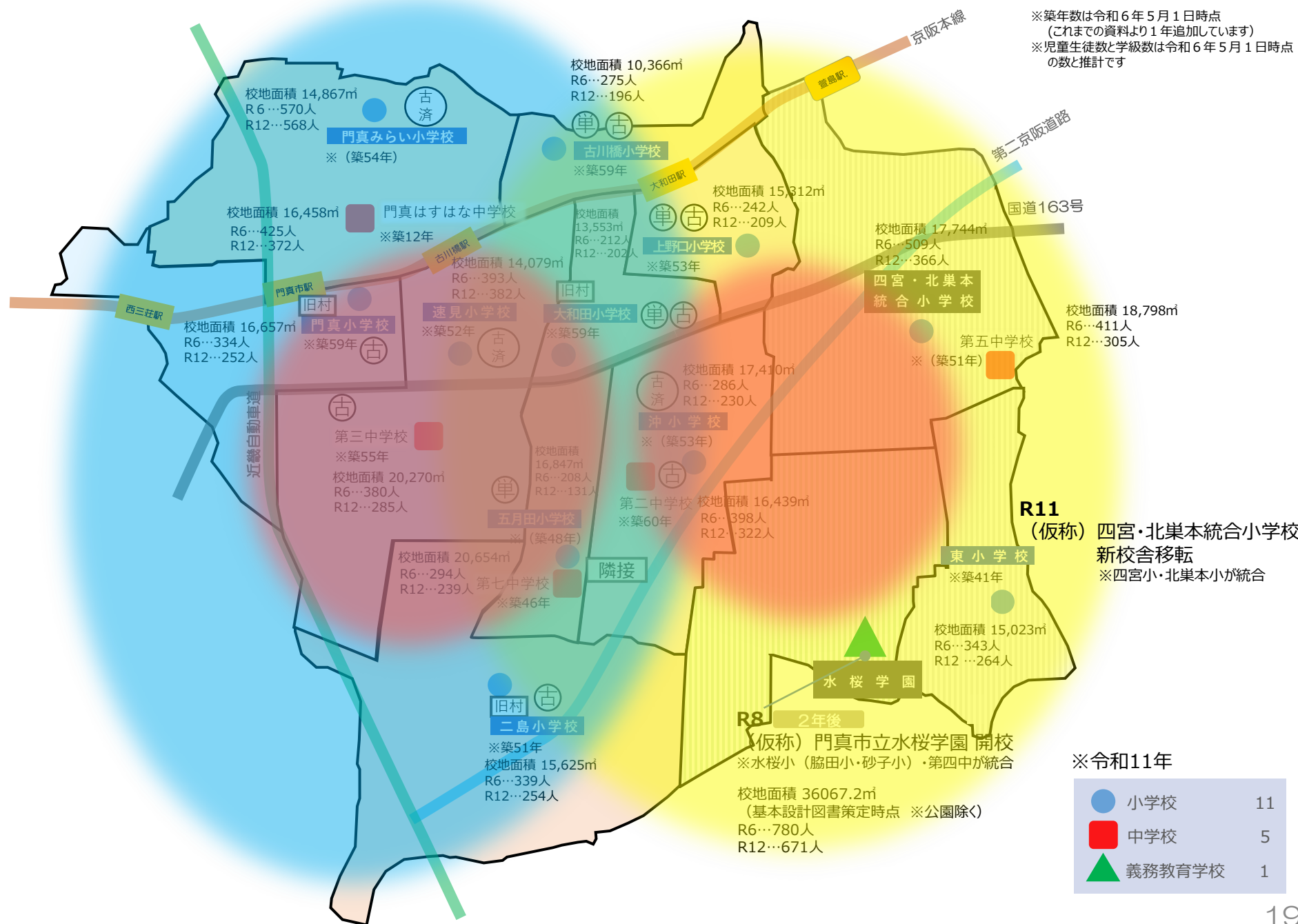


【仮定】 市内2か所にエリアを分けて学校を設置するならば

将来像として
市内で2カ所設置する
とすると、

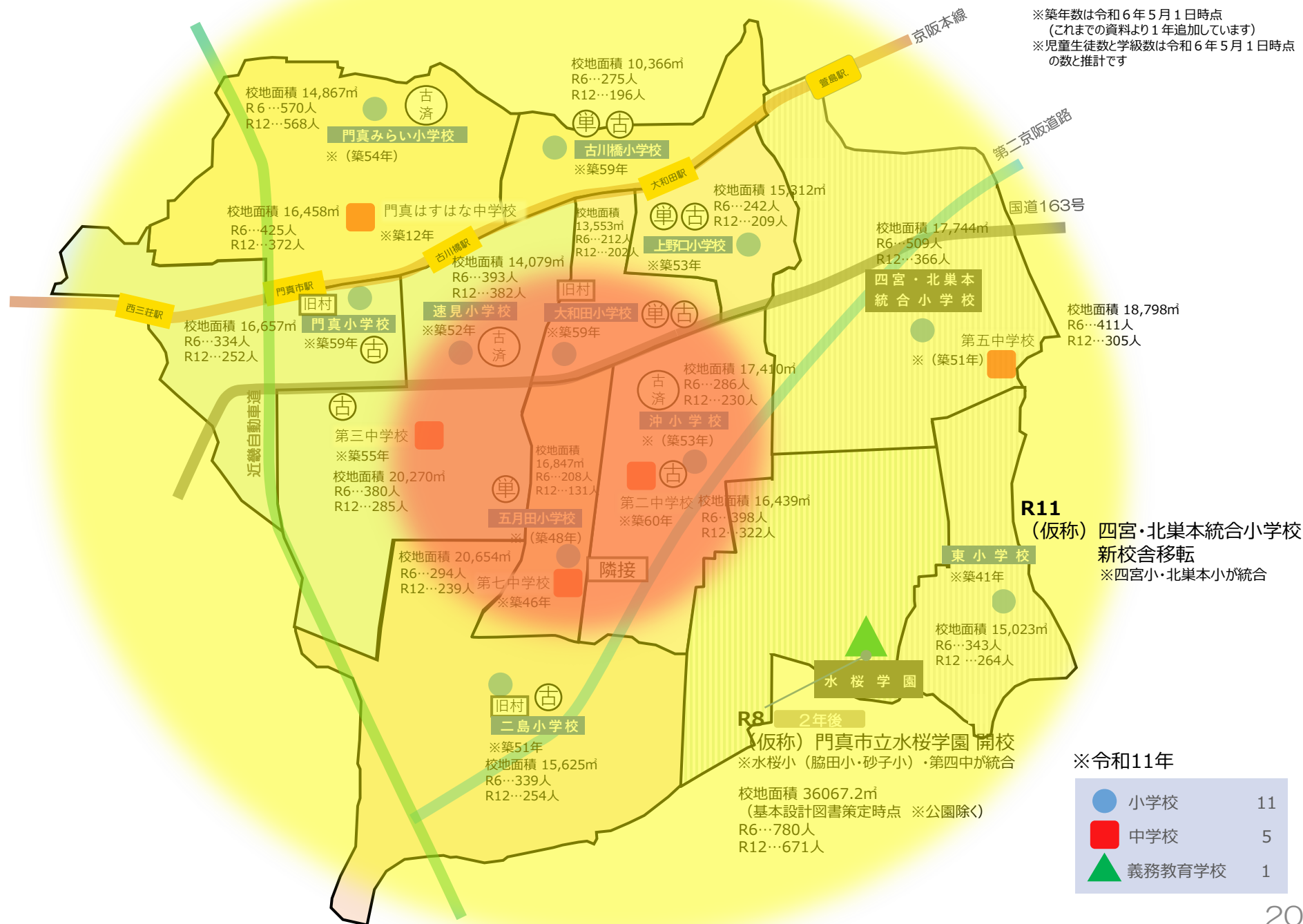
- ・東西にそれぞれ
または
- ・南北にそれぞれ

学校があるのが望ましい
と考えられる。



【仮定】 もし、市内1か所に学校を設置するならば

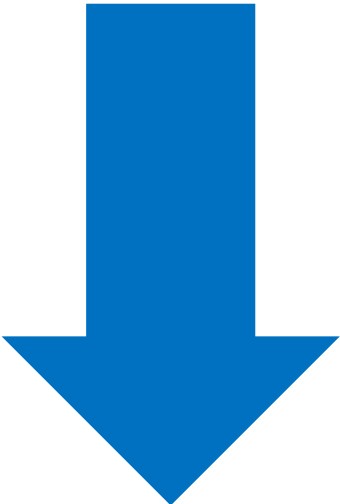
将来像として
市内で1カ所設置すると
すると、市内の中心エリア
に学校があるのが望ましい
と考えられる。



【仮定】 さて、今回はどの程度のエリア分けを行うか？

- どの程度先を見て・どの程度のエリア分けを想定するかによって、結果や考え方に大きな差が生じている。

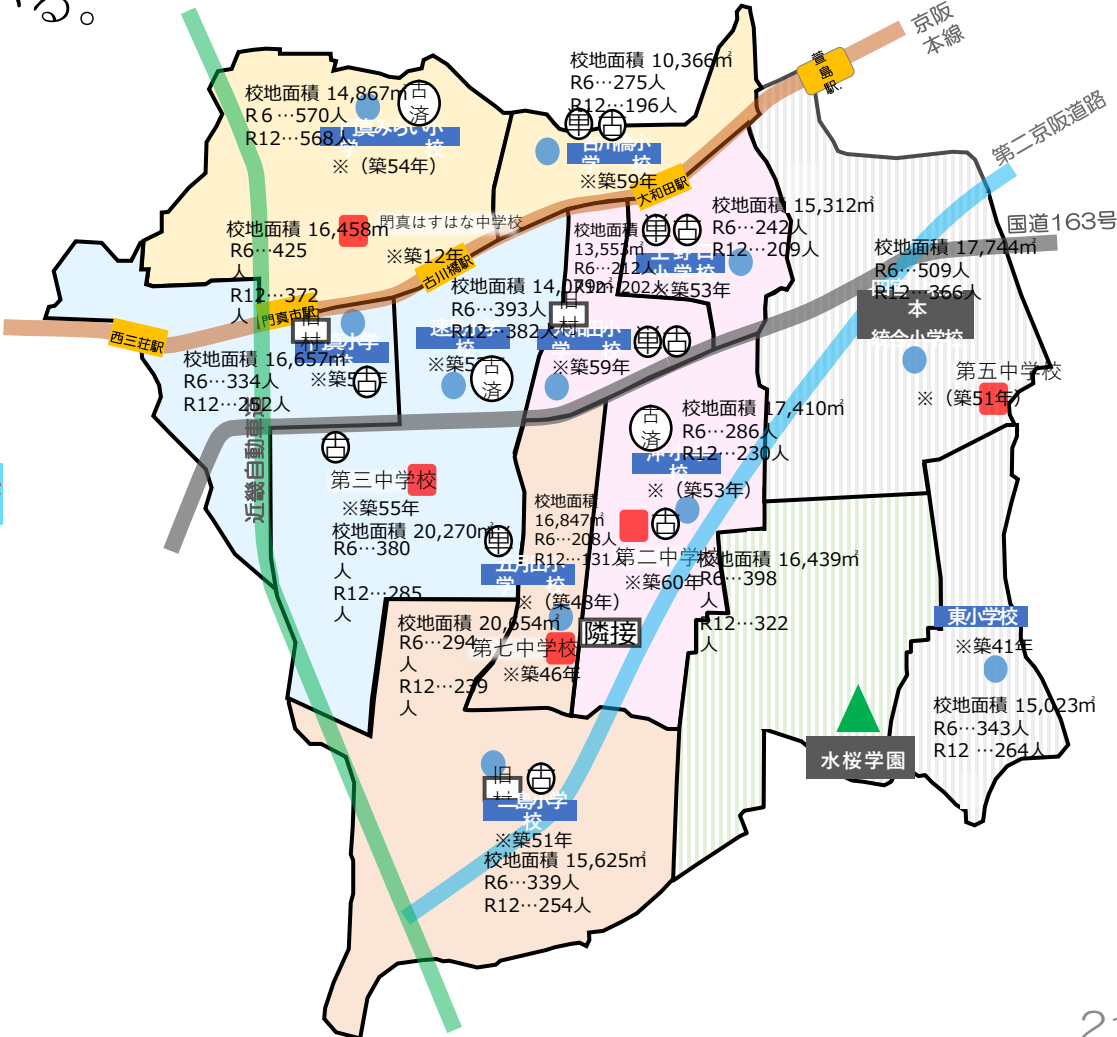
現状配置からの再編



どこかに今回の再編案を設定したい
↓
20年後には実現したい配置イメージ

将来の極論の配置（1小1中）

※ 長期的にはあり得るかもしれない



学校の再編をどの程度進める必要があるか

令和12年の推計(現在0歳の子が小学校入学する時点)を基礎としても

門真のめざす教育を実現する規模の目標(小学校3クラス/学年、中学校4～5クラス/学年)を維持するためには

少なくとも **中学校 3～4校** **小学校 6～7校** 程度まで再編は必要



※ 義務教育学校とした場合、小学校≡中学校のクラス数となるため、別の視点も必要



上記を踏まえると、中期的な市内のエリア設定を**4つ程度**としてはどうか

20年後頃の門真市全体の学校の将来像（案）

将来像として
市内で4カ所設置とすると、
エリア分けはいくつか考えられ
る。

校区の広さや通学距離、
これまでの学校の変遷、
エリア等を考えつつ、
各エリアの範囲（右図重なっ
ている部分）について検討
したい。

